

柘榴

熊谷九寿

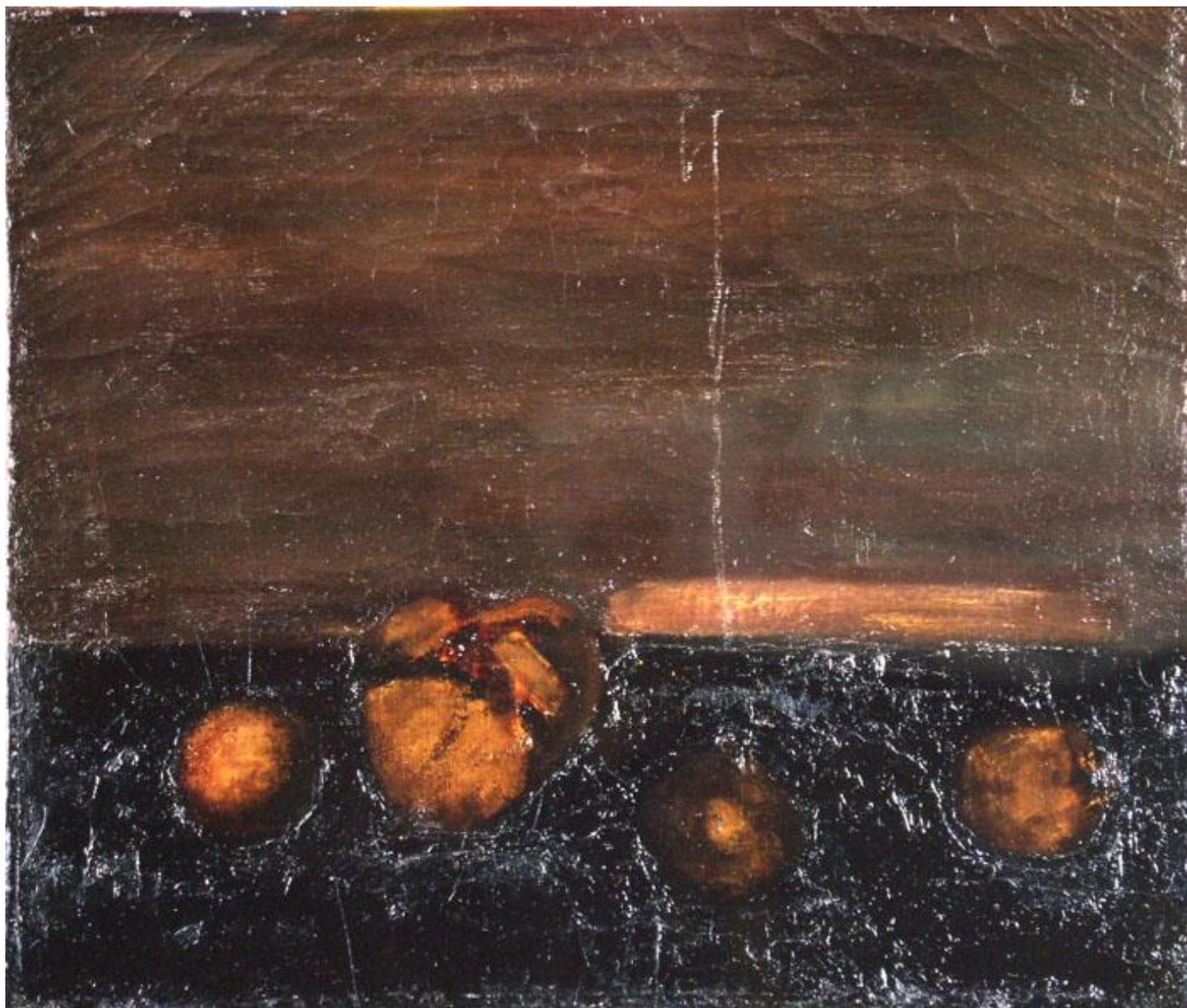
制作年：1936(昭和11)年

サイズ：45.5×53.0cm

材質：油彩、カンヴァス

所蔵：中津市木村記念美術館

1993(平成5)年中津市に寄贈される。



昭和14(1939)年、熊谷は銀座・資生堂ギャラリーで初の個展を開催しました。この作品はその時の出品作です。「昭和九年から十一年にかけ柘榴を三枚描きました。一枚目は物にとらはれて写実に墮し、二枚目は己にとらはれて独善的となり、三枚目でやっと物と己と一如になった様な気がしました。」美術雑誌「みづゑ」にこの「柘榴」の図版が掲載された際に寄せられた熊谷の言葉です(みづゑ414号、昭和14(1939)年6月)。柘榴の連作を通して、熊谷が写実と自己表現の融合という課題に取り組んでおり、三枚目のこの「柘榴」において自らの求める作画に近づいた事がうかがえます。

熊谷は戦後も柘榴を画題として描きましたが、赤々と熟れた実を露わにした後年の柘榴とは違い、色をおさえた画面は沈静的です。熊谷が深く考えながら外(もの)と内(自己)を見つめる様子が伝わってくるようです。その冷静な戦いをとおして勝ち取った荘厳さが感じられます。